

単元名 わくわく算数学習

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 1桁で割って、商が何十・何百になる計算の仕方を理解し、簡単なわり算の計算をすることができる。
 (2) 言葉や図などを適切に用いた計算の仕方を考え、筋道を立てて説明することができる。
 (3) 既習事項を使って、解き方を考え、話し合う活動を通して、進んで問題を解決しようとする。

標準的な展開例

04040101_001

【準備等】黒板掲示用の100円玉、黒板掲示用の10円玉、児童操作用の100円玉の模型、児童操作用の10円玉の模型

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 1桁で割って、商が何十・何百になる計算の仕方について考える。[上p. 6～p. 9]</p> <p>○本時の学習課題をつかむ。 ★100円玉や10円玉を使って、計算のしかたを考えよう。 ○$120 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○$600 \div 3$の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p> <p>○p. 8・p. 9のノートの手書き方の例を見ながら、今後の学習の進め方を確認する。</p> <p>○学習を振り返り、分かったことやできるようになったことなどを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お金の模型を用いて、10や100を単位にして考えると、既習の九九の範囲の除法に帰着できることに気付かせる。 ・買い物場面から、1個分を求める計算はわり算になることを確認する。 ・お金の模型を使い、10円玉の個数で考えさせる。10円玉が($12 \div 3$)個で40円になることを確かめさせる。 ・$600 \div 3$の計算は、100円玉の個数で考えさせ$120 \div 3$の計算と同様に考えればよいことに気付かせる。 ・つまづいている児童には、個別指導を十分にを行い、原因を明確にさせる。 <p>【評】答えが何十・何百になる計算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付、問題、めあて、自分の考え、友達の考え、まとめ、振り返りなどのかき方を確認する。 ・p. 9を参考に、計算の仕方や既習内容の活用方法などを、自分なりの言葉でまとめさせる

【 備 考 】

本単元では、学習課題を知り、自分で考え、話し合いなどの学習を通して、解決していく算数の学習方法を確認することができる。また、ノートの手書き方や学習のふり返りを記入方法など、1年間を通して気を付けることや継続していく取り組みを確認したい。

4年生になって初めての算数の時間である。「答えが何十・何百になる計算」では、具体物を活用したり、話し合ったりする活動を取り入れることで楽しい雰囲気を味わい、これからの算数学習に希望をもたせるようにしたい。また、1年間の算数の学習を見通し、意欲的に取り組むことができるようにしたい。